

平成14年10月7日  
北海道電力株式会社

## 泊発電所B補助ボイラーチューブの補修について(続報)

当社は、9月30日から残りのボイラーチューブ(751本)について厚み測定を実施しておりましたが、本日作業が終了し、その結果、基準を満足しない厚みのチューブが139本認められました。

これにより、ボイラーチューブ総数851本のうち基準を満足しない厚みのチューブは、合計152本となりました。

今後は、当該チューブ等を調査し、原因究明を行うとともに、必要な補修を実施します。

また、A補助ボイラーについても10月5日から定期検査を開始し、B補助ボイラーと同様な確認作業を行っておりますが、その結果についてもチューブ全数の厚み測定が終了した後にお知らせします。

(参考:以下、9月30日にプレス発表済み)

当社は9月17日から10月9日の予定で、泊発電所B補助ボイラーの定期検査を実施しているところですが、ボイラーチューブの厚み測定において、予定の点検計画数(100本)のチューブを測定したところ、13本に基準を満足しない減肉が認められたことから、予定の期間を延長し、補修することとしました。

引き続き、残りのチューブ(751本)についても厚み測定を行うこととしております。

補助ボイラーは、発電所運転中は停止している設備であり、タービンの起動準備や発電所内の暖房等に使用するものです。

このため、原子力発電設備本体に影響はなく、泊発電所1・2号機は、現在定格出力で安定して運転を継続しています。なお、環境への影響はありません。

また、本件については経済産業省および北海道・地元四ヶ町村には連絡済みです。

以上